

波多野宏之教授退職記念号の刊行にあたって

波多野宏之先生は、2016年3月をもって駿河台大学を定年退職されました。2004年4月に文化情報学部（当時）教授としてご着任以来、12年の勤務になります。この間、文化情報学部長、副学長等の要職を歴任され、本学・学部の教育、研究、運営に多大な貢献をされました。長年のご尽力に深く感謝申し上げます。

波多野先生のご専門は、多種多様な美術資料をいかに収集、整理、活用するかを追究するアート・ドキュメンテーション、文化環境の日仏比較です。アート・ドキュメンテーション学会会長、日仏図書館情報学会会長も務められた、この分野における日本を代表する研究者の一人です。

本学赴任前に在籍された国立西洋美術館においては、主任研究官として国立西洋美術館研究資料センターの開設（2002年3月）に力を注がれました。同美術館が半世紀にわたって収集してきた膨大な学術資源を外部の美術館学芸員や大学の研究者、外国人研究者らに公開した研究資料センターは、美術館の中の人だけが使う資料室から、西洋美術史研究の一大研究拠点に生まれ変わり、内外から高い評価を得ています。

波多野先生が本学に赴任されたのは、西洋美術館での仕事に一区切りがついたことで、次はもっと若いひとたちに、アート・ドキュメンテーションの仕事とはどういうものなのか、なぜ重要なのか、なにを勉強すればいいのかを伝えたいとの思いが強まったから、とのことでした。

その言葉のとおり、波多野先生は、文化情報学部及び改組されたメディア情報学部において、アート・ドキュメンテーションをはじめ、都市と文化施設、メディア・アート論などおもに図書館・アーカイブズコースの科目を担当され、精力的に講義されました。この分野の学問の重要性和奥深さ、楽しさは、十分に学生に伝わっていたように思います。波多野先生のご指導ぶりを垣間見る機会がありましたが、とりわけ印象的だったのは、大学院文化情報学研究科における修士論文指導に対する情熱です。長い時間を割かれて、実に熱心に、また懇切に院生を導かれ、育てあげられました。

学部運営、大学運営にも貢献されました。就任2年後の2006年4月に文化情報学部長に就任され、学部の充実を図られました。任期終了後の2008年4月には、副学長に就き、入試業務を中心に2年間にわたって難しい時期の大学運営の重責を担われました。

学生が教員にインタビューするシリーズ企画「メディア情報学部記者クラブ」において、波多野先生は、大学を目指す高校生に対して「出会いを大切に。人との出会い、本との出会いによって、いろいろなことをたくさん吸収し、人として成長して欲しい」とのメッセージを送られました。本学における波多野先生との出会いは、学生にとっても私たち教員にとっても、極めて大切なものになったと実感しております。改めて御礼申し上げます。

最後になりましたが、波多野先生のますますのご活躍をお祈りするとともに、今後とも折に触れてご指導を賜ればと願っております。

2016年12月
メディア情報学部長 瀬戸純一